

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

個人研究

2012年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名	氏名
	観光学部・教授	杜 国慶 印
研究課題	多民族共生地域の変容メカニズムに関する研究 —中国雲南省を事例として—	
研究期間	2012 年度	
研究経費	500,000 円	

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと)

本研究は、中国雲南省を事例として、多民族共生地域の地域性と社会経済的な変化を明らかに、さらにこの地域と民族を変容させるメカニズムを解明することを研究目的とし、まず、雲南省の 13,431 村 (行政村) の 153 項目の属性データを用いて、少数民族の分布と社会経済的な状況を説明するデータ・ベースを構築した。次いで、事例研究として、世界遺産「麗江古城」近郊に位置する拉市海周辺の村落に展開されてきた騎馬観光を調査し、世界遺産登録による観光化の展開が周辺農村地域への影響を解明した。多民族地域の自然多様性による民族文化と社会多様性の重要性を認識したうえで、地域の変容およびそのメカニズムを解明した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入)

[少数民族] [地域変容] [雲南省]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

中国は 56 の民族から成る多民族国家であり、改革・開放政策によって社会主義市場経済が導入され、地域と社会には大きな変化が現れた。この変化は全国一律とはいえず地域に著しい格差が存在する。とくに、漢民族地域と少数民族、または多民族共生地域との間の格差が顕在化しているため、少数民族地域の社会・経済的な変化をとらえることが、中国の地域研究にとっては不可欠である。本研究で取り上げる多民族共生地域の雲南省は、経済発展と観光開発によって大きく変化してきた。本研究の成果として、主に以下の 2 点にまとめることができる。

第一に、雲南省の少数民族地域の変容について、雲南省の 13,431 行政村の 153 項目の統計データをすべて収集し、地理情報システムまたは統計分析で利用できるデータ・ベースを構築した。膨大な量を有するデータ・ベースであるため、単年度の本研究で分析し切ることにはできていないが、今後の研究のために重要な基盤を築いた点において非常に重要であると考えられる。

第二に、事例研究として、1997 年に世界遺産に登録された「麗江古城」の近郊に位置する拉市海周辺の村落を選び、世界遺産の観光化の影響を受け、中国従来の政府主導型の観光開発と異なる形態で村民が自発かつ自主的に行ってきた騎馬観光について現地調査を実施し、世界遺産登録による観光化の展開が周辺農村地域への影響を解明した。拉市海周辺において最初に乗馬観光は、1998 年に海東村の自然村安中村で始まった。次第に、乗馬観光の需要の大きさや収益性の高さが着目されるようになり、利用客の増加に伴い、わずか数年のうちに南東岸(海東村)だけでなく、東岸(美泉村)や北岸(均良村)でも騎馬場を開業する自然村が増加し、拉市海周辺は乗馬観光を主体とする観光地域に成長していった。その結果、2010 年現在、拉市海周辺に合計 20 の騎馬場が営業するに至り、所有馬は 3,023 頭、参加農家は 804 戸へと増えてきた。とくに、2010 年には大きな増加が確認できる。

拉市海周辺の乗馬観光において最大の課題は、集客のためにタクシー・観光バスの運転手またはガイドに支払われる過剰なコミッションの問題である。麗江古城からの時間距離が長く集客に不利な騎馬場ほど、コミッションの割合が高くなる傾向にある。各騎馬場では、安定した集客のために運転手へのコミッションの提供は不可欠と考えられているが、その割合の上昇は騎馬場の採算の悪化を招き、それが各参加農家の所得の減少につながり、騎馬場経営を圧迫する大きな要因となっている。加えて、コミッション割合の上昇は料金を支払う観光客の利益を損なうことにもなり、世界遺産観光地の安定した観光客の供給および観光地のイメージに影響を与える可能性がない訳とは言えない。そして、騎馬場と観光客の増加が村落のインフラ整備に負担をかけたことが指摘されている。大型バスを利用する団体客にも村民の日常生活と生産活動にも大きな支障が生じている。観光開発に伴うインフラの整備も重要課題となる。このようなインフラ整備問題は、個別の村落あるいは村民レベルで解決できるものではなく、行政側の努力が不可欠である。村民が自発的に行ってきた乗馬観光も村民の能力の限界に近付いており、今後、行政側と連携による環境づくりが乗馬観光の要になる。

拉市海の乗馬観光の事例研究は、2012 年 8 月に Trier で開催された国際会議 IGU (International Geographical Union) の Tourism Geography Commission で発表し、言語の障害による聞き取り調査が非常に難しい少数民族地域での詳細な現地調査と精密な分析が好評され、学術専門図書に収録された。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

雑誌論文

杜 国慶：少数民族地域の観光開発と地域変容—中国雲南省徳欽県を事例に—。なじまあ，第3号，2013年。

図書

Du, Guoqing: Influence of World Heritage Tourism to the Local Area: The Case of Horse-Riding Sightseeing in the Villages around Lashihai Lake, Lijiang. In Andreas Kagermeier & Jarkko Saarinen (ed.): Transforming and Managing Destinations: Tourism and Leisure in a Time of Global Change and Risks. 243-262.2012年. Verlag MetaGIS-Systems, Mannheim. 380p.

シンポジウム・公開講演会等の開催

Du, Guoqing: Influence of World Heritage Tourism to the Local Area: The Case of Horse-Riding Sightseeing in the Villages around Lashihai Lake, Lijiang. IGU (International Geographical Union) Pre-Conference Symposium, 2012年8月22-25, Trier (Germany).